2021 年５月号
No. 200

令和３年５月27 日
関東中央病院　けやき会

けやき会通信

部長就任のご挨拶

糖尿病・内分泌科　部長　岡畑純江

風薫る５月でございますね。みなさま初めまして、４月１日付で糖尿病・内分泌内科の部長に就任させて頂きました岡畑純江と申します。都内のみならず、国内でも屈指の歴史と伝統を誇る糖尿病患者さん会である「欅会」に、インスリン発見 100 周年という糖尿病治療の節目の年にお仲間に入れて戴けますことを、大変嬉しく光栄に存じております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

初めに自己紹介させて戴きたいと思います。私は関西（大阪）出身で、文学部を卒業後に医学部に進学いたしました。医師免許証取得と同時に上京し、初期・後期研修を経て大学院修了後、本年３月末まで大学病院の教職員として 10 年間、医学教育・臨床・研究に携わってまいりました。

世田谷区は前任の東邦大学大橋病院の患者さん会「清風会」の歩く会で、駒沢公園、世田谷公園、馬事公苑を度々訪れさせて頂きまして、広くて安全な環境で糖尿病の運動療法を実践させて頂いた思い出の地でもあります。この度、緑豊かな関東中央病院に勤めさせて戴くご縁に感謝しております。

昨年来、糖尿病患者さんの日常生活・療養生活は COVID-19 禍で一変してしまいました。COVID-19 の世界的な感染拡大に伴い、罹患者の 20－50%に糖尿病を合併していることが報告されました。糖尿病患者さんの感染予防の指針が公表され、その中には「代謝関連疾患治療の重要性の理解、現在の治療の最適化、治療中断に関する注意喚起」などが盛り込まれています（The Lancet Diabetes & Endocrinology, 2020）。これらの項目は決して COVID-19 感染予防に限ったことでなく糖尿病の治療・療養を続けてこられたみなさまが既に実践されている内容ですが“当たり前のことを当たり前に実践する”ことの重要さと困難さを示しているとも言えます。このような時代にこそ、糖尿病に共に取り組む「欅会」のお仲間やご家族、医療スタッフとの連携がますます重要になってくることを感じている次第です。

日本糖尿病協会（以下、日糖協）様より頂戴した資料に拠りますと、1961 年設立の東京都糖尿病協会所属の友の会の中で「欅会」は 20 番目（1975 年）に登録され、現在 145 施設の中で会員数は３番目、日糖協に登録されている医療機関設置の友の会の中でも ３ 番目の会員数を誇るとのことです（2021 年 ４ 月現在）。大勢のお仲間のみなさまと共に「糖尿病をもつ人が安心して社会生活を送り、人生 100 年時代の日本でいきいきと過ごすことができる社会形成を目指す活動（アドボカシー活動）」（日本糖尿病学会・日糖協）に寄与できるよう、太田明生先生から林正紀先生、水野有三先生と歴代の先生方に引き継がれてきた「欅会」のバトンを引き継がせていただければと存じます。改めまして、どうぞ宜しくお願いいいたします。